

氏名	数 田 稔
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1615 号
学位授与の日付	昭和60年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	子宮頸癌放射線療法における PS-K の併用効果
論文審査委員	教授 青野 要      教授 折田薫三      教授 木村郁郎

### 学位論文内容の要旨

子宮頸癌放射線療法症例に PS-K を併用し、放射線治療効果におよぼす影響について検討した。対象の子宮頸癌患者90例を PS-K 併用群30例、放射線単独療法群60例に分け、この両群間において照射効果を比較した。PS-K は放射線照射開始から終了まで1日3gを連日内服投与した。外照射は、テレコバルト1日200rad、週5回の全骨盤照射を3,000rad以後はセンターブロックを使用して計5,000~6,000radまで行い、小線源腔内照射は、テレコバルト3,000rad照射以降に行った。組織学的照射効果の判定は、大星一下里分類と同時に腫瘍細胞密度の減少率を算出し、この両者を各々点数評価して、組織学的照射効果とした。更に腔拡大鏡写真による腫瘍面積の測定を行い、腫瘍全体の縮小効果を判定した。これら組織学的及び腫瘍縮小効果判定に基づき、その合計点による総合評価を行った。

3,000rad照射時における総合評価において放射線単独療法群60例では良好19/60 (31.7%)、中等25/60 (41.7%)、不良16/60 (26.7%)であったが、PS-K 併用群30例では良好18/30 (60.0%)、中等11/30 (36.7%)、不良1/30 (3.3%)と有意に ( $P < 0.01$ ) 良好な照射効果を認めた。

次に PS-K 併用群の照射効果を良好及び中等度以下の2群に分けて、照射効果と宿主免疫能の関連を検討した。末梢血リンパ球数、組織内のリンパ球浸潤および免疫皮内反応は、良好群と中等度以下の群のいずれにおいても、照射による抑制がみられたが、両群間で差異はみられなかった。しかし、LMIT (白血球遊走阻止試験) では、良好群で照射にともない陽性化する症例が増加する傾向を認めたが、中等度以下群では逆に陰性化の傾向を示した。すなわち、PS-K 併用による放射線療法において、照射効果増強作用とリンパ球機能の保持または増強との間に何らかの関連がある事を示唆する結果を得た。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は子宮頸癌放射線療法における PS-K の併用効果について臨床的に研究したものであるが、その効果判定に当って従来の大星一下里分類に細胞密度減少率による評価を加味して総合的に組織学評価を行った点と更に免疫学的効果について考察を加えており、これ等の点より重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認めます。